（第三種郵便物認可）消費税込み定価1ヶ月3,000円・1部120円　日曜休刊

マイ my way ウェイ

指導司祭

カトリック大学である南山大学の特色の一つは3名の「指導司祭」の存在である（プロテスタント系の大学では普通チャプレンと呼ばれている）。主な仕事は公式な行事での祈りであるが、3名はそれぞれ大学のいくつかの委員会に属し、

南山大学学長　ミカエル・カルマノ　30

形式的な行事の〝側面〟理解

大学全体の運営に関わる仕事もしている。私は就職して直ぐに指導司祭の任命を受け、しばらくして学生委員会に加わった。学生が抱えている問題についての対策を考える委員会で、私にとって非常に勉強になる場となった。1990年代の教養学部改革に伴い、南山大学のシンボルである宗教科目の位置づけを考えるワーキンググループにも入っていた。しかし、指導司祭として目立つのはやはり入学式や卒業式のような全学的な行事に欠かせない、キリスト教的なセレモニーを率いるという役割である。

反抗心をトレードマークとした学生であった経歴を持ち、セレモニーとそれに使われるユニホームを形式張ったものとして軽視する傾向がある私であるが、日本へ来てからその考え方は少し変わってきた。普段から何かの意味や目的を求めてきた私であったが、捉え所なく目的もはっきりしないように見える儀式においても、儀式そのもの美しさ、そしてそれに参加する人の深い次元での連帯を感じるようになったからであろう。茶道や生け花だけではなく、剣道や弓道等の武術にもこのような側面があるのではないかと思うようにもなった。学生と一緒に神社やお寺を見学するとき、本堂の前で素直に手を合わせる学生の姿も印象深い。

言うまでもなく、時としてこのようなセレモニーは特別な意味を持つようになる。練習中の怪我で亡くなった学生のために私が行った追悼ミサは極端な例であるが、幸いなことに、「先生、教会で結婚式あげてください」という、卒業した元ゼミ生の願いが多い。しかし、多少複雑な気持ちとなるイベントもある。半世紀以上毎年行われている上南戦、南山大学・上智大学の総合運動競技大会の開会式に先立って必ず、選手達の健康と安全を祈るミサがある。カトリック大学同士なので、神様のえこひいきはないはずであるが、やはり密かに「うちのチームが勝つように」と身勝手な願いする参加者もいるであろう。

卒業式で指導司祭として登場